

# 石巻市（蛤浜）から南相馬へ

石巻市蛤浜の亀山さんのお宅を訪れました（11月上旬）。20 数戸の集落であった浜はなかなか集落として戻りません。幸い津波に壊されなかった数戸のお宅が・・・。

目の前の湾にこれから6mの防潮堤がつくられるとのこと。「海が見えなくなってしまう、漁の為にも津波対策の為にもよくない」と亀山さんは宮城県に言っているが、県は聞く耳を持たない感じとのこと。地元の声よりも“特区や公共事業に目が行く宮城県知事の姿勢には疑問です。

カキ漁が最盛期を迎え朝3時から漁が始まっているのは何より、ホッとしました。

蛤浜から桃浦そして北上川脇の大川小学校へと向かいました。大川小学校ではほとんどの生徒と先生が犠牲になり、「なぜ裏山に逃げなかったの？」と…悔やまれます。お花を手向けさせていただきました（合掌）。

滴々と水をたたえて静かに流れている北上川を“3・11”には津波がさかのぼり大惨事に。鉄筋コンクリートの柱も壁もへしおれてしまっている学校の姿を見るに自然の力の大きさ、恐ろしいほどの自然の前での人間の取るべき姿勢が問われます。2011年3・11は私たちに根本的に社会のありようを問うたはず。…でも今は何か忘れ去られようとしています。

復興工事用のダンプが何台も何台もひっきりなしに走っていました。一日も早く安心できる生活をとらざるを得ませんでした。

南相馬市役所で桜井市長とお会いし45分ほどお話ししました。

南相馬市に戻っている人は震災前の70%ほど。浪江町から避難している方は3000人位。避難指示が解除される小高地区では戻っている住民は10%位。小中学生の保護者は不便さと健康の不安からなかなか戻る決心はできないとのこと。



桜井市長は「避難解除と賠償がリンクしているのが住民をいらだたせる原因」「避難していた時間が長くなれば長くなるほど市民は不安になってくる」「子どもも避難先で成長しているし」「65歳以上の住民は90%ぐらい戻るが・・・」と南相馬市の苦しい状況を語ってくれました。

そしてこれからの街づくりで必要な医療資源はやはりスタッフが足りないという課題があり、再生可能エネルギーは民間の事業化に頼るところがあるとのこと。

これまでの4年半の復旧・復興事業の中で飯館村の除染作業に7000億円が投じられているが果たしてこのような作業が“地域創生”に繋がるのだろうか？と疑問を呈しました。

『生きている事』と『生きている幸せを感じる事』との違いと、どう心に感じるように語れるのかが大切とコミュニティづくりのキーワードを指摘してくれました。

“原発事故さえなければ”と思える数値を常磐道の高速道路で見せつけられました。双葉町周辺4.4 $\mu$ sv/h、大熊町：2.2 $\mu$ sv/h富岡町：1.9 $\mu$ sv/hの放射線量が表示されていました。